

TOPICS  
4

# トピックス…④ 減少が続く乳用牛の飼養戸数 と飼養頭数

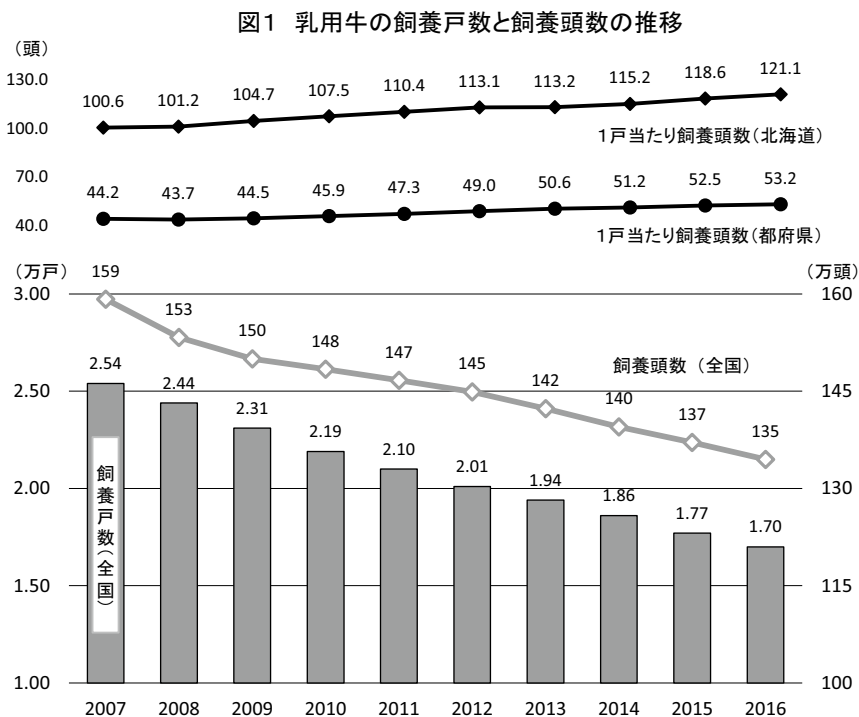
農林水産省は7月5日、「畜産統計」（2016年2月1日現在）を公表した。これによると、乳用牛の飼養戸数は1万7,000戸で、廃業等により前年に比べ700戸減少した。飼養頭数は134万5,000頭で、同2万6,000頭減少した。また、1戸当たり乳用牛飼養頭数は増加傾向で推移しており、北海道が121.1頭、都府県が53.2頭となった。

乳用牛の飼養戸数は近年、年率4%程度の減少傾向で推移しているが、2013年に2万戸を割り、16年は前年に比べ4.0%減の1万7,000戸となった。飼養頭数は年率2%程度の減少傾向で推移しており、16年は前年に比べ1.9%減の134万5,000頭となった。

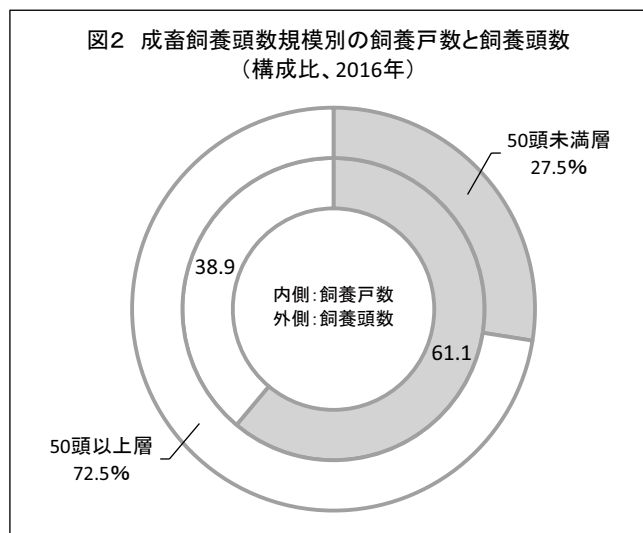
1戸当たりの乳用牛飼養頭数は、北海道が前年に比べ2.5頭増の121.1頭、都府県が同0.7頭増の53.2頭となった。なお、経営規模の拡大傾向は、両地域ともに継続しているが、北海道の1戸当たりの乳用牛飼養頭数は、都府県のその2.3倍となっている（図1参照）。

1戸当たりの乳用牛飼養頭数の増加は全国的な傾向であり、このような状況の中で、成畜飼養頭数における大経営規模層の占める割合も拡大している。これは、生乳生産量の大规模経営への集中過程と軌を一にしており、2016年の成畜飼養頭数規模50頭以上層の占める割合をみると、飼養戸数については38.9%であるのに対して、飼養頭数については72.5%になっている（図2参照）。

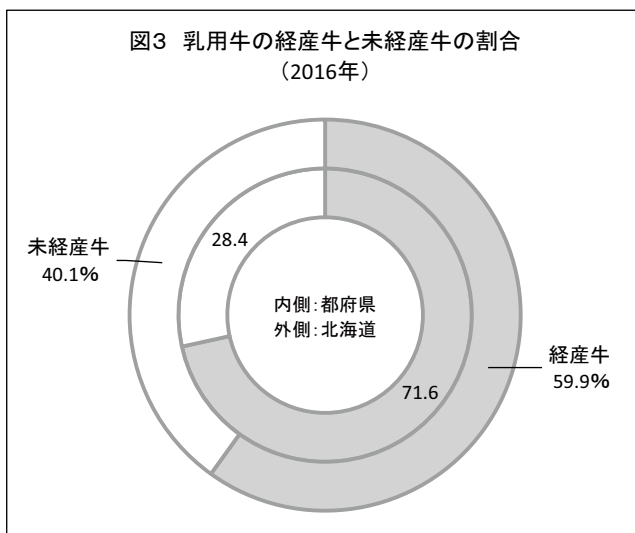
また、経営規模の拡大が進展する過程で、乳用牛飼養頭数に占める経産牛飼養頭数の割合（「経産牛率」）について、地域間の差が顕在化している（図3参照）。この「経産牛率」は搾乳後継牛の需給バランスに影響を及ぼす要因の一つと言えるが、近年、北海道で50%台後半で推移しており、2016年は前年に比べ1.8ポイント増の59.9%、都府県では70%台前半という高水準で推移し、同0.8ポイント増の71.6%となっている。



資料：農林水産省「畜産統計」



資料：農林水産省「畜産統計」



資料：農林水産省「畜産統計」